

## 株主の皆様へ

平素よりアジア開発キャピタル株式会社をご支援いただき、誠にありがとうございます。

私は、このたび開催される第106回定時株主総会をもちまして、代表取締役を退任し、取締役としても経営の第一線から退くこととなりました。

まずは、株主の皆様に対し、これまで賜りましたご支援、ご理解に心より御礼申し上げます。

当社は特設注意市場銘柄の指定以降、極めて厳しい経営環境の中でありましたが、株主の皆様、お取引先の皆様、そして社員の皆様の支えにより、事業継続と経営再建に取り組んでまいりました。

第106期連結会計年度において、当社グループは、営業収益11億7,384万円、前期の約2.5倍の成長を実現、経常利益10億6,111万円、親会社株主に帰属する当期純利益は2.2倍となり、10億8,050万円を計上することができました。また、純資産は21億3,113万円（前年比2.2倍）となり、長年にわたり課題であった財務体質の改善においても一定の成果を上げることができました。

そして何より、2026年3月期において通期黒字を達成できたことは、当社にとって実に18年ぶりの大きな成果であり、経営再建の重要な節目となったものと考えております。

当社が2021年に公表した「リバイバルプラン」では、財務基盤の再構築、事業構造の見直し、収益力の強化及び企業価値向上を掲げておりました。黒字化の実現、財務基盤の改善、事業ポートフォリオの見直しなど、計画の重要な部分については実現することができたものと考えております。

さらに、上場廃止に至る要因の一つとなった過去の不適切な会計については、前経営陣に対する損害賠償請求訴訟を提起し、責任追及を行ってまいりました。

第一審判決では、旧経営陣であった高瀬氏及び谷口氏に対する損害賠償請求が認容されました。その後、当社は更なる責任追及を求めて控訴を行い、高等裁判所においては、網屋氏、高瀬氏及び谷口氏に対し、遅延損害金を含め総額59,631,149円の支払いを命ずる判決が言い渡されました。

また、当社は上告受理申立てを行いました。2026年6月5日、最高裁判所において上告受理申立ては受理されず、本件訴訟は終了いたしました。

なお、これら一連の対応を進める中で、過去より回収に取り組んできた債権についても着実に回収を進め、その結果、約6億5千万円の全債権の回収を実現し、財務基盤の改善に寄与することができました。

結果として、上場廃止に至る過程で生じた問題について、会社として司法の場で検証を求め、旧経営陣の経営責任について一定の司法判断を得ることができました。また、債権回収による財務基盤の改善にもつなげることができたことは、会社再建における重要な成果の一つであったと考えております。

そして何より、株主の皆様に対する説明責任を果たし、過去の問題に対して会社として真正面から向き合うという役割を果たすことができたものと考えております。

第107期は2026年4月1日から2026年12月31日までの9か月間の変則決算となります。2026年4月から6月までの業績も順調に推移しており、現在の経営状況を踏まえましても、第107期において引き続き黒字を確保できる見込みであり、今後も持続的な成長と企業価値の向上に取り組んでまいります。

私は代表取締役としての役割を終えることとなりますが、引き続き当社の業務をサポートするとともに、その後も当社の発展を見守りながら、新たな経営陣への円滑な引継ぎと企業価値向上に協力してまいりたいと考えております。

最後になりますが、困難な時期においても当社を信じ、支えてくださった株主の皆様、日々会社のために尽力してくれた社員の皆様、そして当社を支えてくださった取引先の皆様、監査人、弁護士、会計士をはじめとする関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

長年にわたりご支援いただき、誠にありがとうございました。

2026年6月24日

アジア開発キャピタル株式会社  
代表取締役社長 アンセムウォン